

## ～土木学会四国支部土木紀行 No.60（香川県）～

### 「男木島の石積みと瀬戸内海の景観」

瀬戸内海に浮かぶ男木島は、香川県高松市に属し、面積 1.37 km<sup>2</sup>、人口 200 人弱の小さな島です。島にほとんど平地は無く、集落は島の南西部の急斜面を覆うように密集し、来る人を圧感させます（写真一1）。男木島の入り組んだ石積みの路地や町並みは、瀬戸内海の島らしさを残しており、その隙間から見える瀬戸内海はとても魅力的です（写真一2）。

しかし、島の外部の人は情報の少なさからこれを知らず、島の内部の人は身近すぎて気付いていません。島の魅力である町並みや海が観光資源として扱われていない現状にあります。近年、石積みに変状が各所で見られ、劣化の進行が危惧されています。人口減少により空家率が 40%を超え、廃屋も目立っています（写真一3、写真一4）。このまま何もしなければ、時間とともに石積みが劣化し、廃屋の増加によって島の景観の価値が損なわれ、人口が減り、誰も訪れないさみしい島になる可能性があります。



写真一1 船から見る男木島の集落



写真一2 路地から見える瀬戸内海



写真一3 石積みの劣化



写真一4 廃屋の増加

そこで、島の魅力・価値を明らかにしようと思います。男木島の大きな魅力として二つあげると、一つ目は石積み集落です（写真—5）。石積みの上に建てられた古い民家がぎゅっと集まってできた町並みはどこか懐かしく、中でも路地は狭く入り組んでいて迷路のようになっています。二つ目は、島から見る瀬戸内海です（写真—6）。島のあちこちから見える瀬戸内海は、潮目による海の色の変化や行き交う船舶など、表情豊かで見る人の心を和ませます。さらに魅力アップして外部の世界にこれらを伝えるために、島の回遊ルートや町並みの修景ガイドプランを作成します。

島の外部へ魅力を発信するとともに、島の観光に関する問題点の発見と改善策の提案をしようと思います。現地調査から、島の内部と外部の二つの視点からあげられる問題があることが分かりました。外部側の問題は、石積みの変状・劣化、空家・空き地の増加、休憩所が少ない、道が分かりにくい、島に関する情報が少ない、などがあげられます。石積みや町並みは、男木島の景観に大きな役割を担っているため、その改修が重要となってきます。島の石積みの劣化や空家の増加は、内部側の問題でもあるため、島の内部と外部二つの立場を考慮した改修策が求められます。

男木島は入り組んだ石積みの路地を「歩く」という楽しさと、路地の隙間から見える瀬戸内海や猫など「立ち止まる」という楽しみがあります。これらの魅力を島の外部の人に知ってもらい、男木島のことを好きになってもらいたいと思います。外部の人が訪れることによって島の内部の人も改めて島の魅力を再認できると考えます。男木島の魅力を今一度考え、瀬戸内海の島の歴史的な街並みである石積み集落を保全していきたいと思います。



写真—5 石積み集落



写真—6 豊玉姫神社から見る瀬戸内海